

第2期 瀬谷区地域福祉保健計画策定委員会 第1回議事録	
日時	平成22年4月23日(金) 午前10時から12時まで
場所	区役所1階会議室
出席者	名和田委員長 小澤委員 諸橋委員 水野委員 網代副委員長 早坂委員 岸本委員 河野委員 清水委員 北井委員 永嶋委員 米倉委員 上原委員 大貫委員 中野委員 本田委員 (16名)
欠席者	田村副委員長 堀川委員 (2名)
内容	<p>1 開会のあいさつ 福祉保健センター長より</p> <p>2 はじめに (1) 第2期計画策定委員・事務局紹介 策定委員会名簿の順に従い各委員の自己紹介(2名欠席) 事務局紹介 福祉保健課 区社会福祉協議会</p> <p>(2) 委員長および副委員長選出 委員の互選により名和田委員が委員長に選出される。 第2期 瀬谷区地域福祉保健計画策定委員会設置要綱(以下要綱)6条により委員長が副委員長を2名を指名し、網代委員、田村委員が選出された。</p> <p>3 議題(議事進行 名和田委員長) 要綱7条2項により委員の過半数出席あり会議成立の確認</p> <p>(1) 瀬谷区地域福祉保健計画について(これまでの取組み) 事務局から瀬谷区地域福祉保健計画、地区別計画についてこれまでの取組について説明。(資料1 資料2)</p> <p>質問なし</p> <p>(2) 今後の策定委員会の進め方について 事務局から第2期計画策定に向けたタイムスケジュール、話し合いのテーマ(案)について説明。(資料3 資料4) 第2回 見守り・支えあいについて 第3回 ネットワーク作りについて 第4回 担い手・人材の育成について</p> <p>第2期横浜市地域福祉保健計画(以下市計画)では地区別計画を策定する方針。 瀬谷区は第1期計画から地区別計画を策定しており、引き続き策定する。</p>

市計画では、社会福祉協議会の地域福祉活動計画と第3期計画から一体化する方針になっているが、瀬谷区では第2期計画から一体化を図る。

このため、事務局は福祉保健課と区社会福祉協議会が協働して行う。

タイムスケジュールについて、10月の中間案策定にむけ8月まで会議を5回開催。広く区民意見を聴取し、12月に最終案を公表する予定。

地区別計画は地区支援チームの編成がすみ、5月6日の地区別計画推進懇談会を皮切りに各地区での取り組みが始まる。

策定委員会では全域計画について議論検討していただきたい。

瀬谷区の地域福祉保健計画において、全域計画と地区別計画は車の両輪の関係。地区別計画策定の中で出された全域計画に反映すべき意見や課題は策定委員会に情報提供、提案を行い、あわせて策定委員会での意見等は地区支援チーム等を通じて各地区に情報提供し整合性をとっていく。

○ 質疑

- 委員長 市計画の第1期計画は手探りで策定を進めた。第2期計画は区計画の取り組みに大きく影響されて策定された。今回からは区社会福祉協議会(以下区社協)も共同事務局となるので、ぜひ積極的に貢献をお願いしたい。タイトなスケジュールになっているが、必要なスピードなのでぜひ集中して審議していくことを考えて進めていきたい。5月6日に第1回地区別計画推進懇談会があるということなので傍聴したい。
- 委員 地区支援チームとは何か
- 事務局 区役所福祉保健センター・区社協・地域ケアプラザの職員で構成するチームで、チームリーダーを中心に複数名がチームで地域を担当し、地区別計画策定及び推進に携わるシステム
- 委員長 チームは何をするのか、すべきなのか戸惑いがあると聞いているがどうなのか。横浜は人口が多いので地区別に行政が入っていくスタイルは今までなかった。新しい局面を迎えていると思う。
- 委員 阿久和北部では、事業推進に地区支援チームが深く関わり、地域と一体感があり、成果としては十分なものがあつたと思う
- 委員 地区支援チームは、地域と一体で動いているので、その都度区役所等に事業の説明などが不要になり、機能は有効であると思う
- 委員長 区社協にとって、地区支援はどのように受け止めているか
- 事務局 従来から地区社協に対する支援を心がけていたが、地区支援チームに区社協職員が参加することにより、具体性が出てきているものと思う。また、職員にとってもいい経験ができると考えている。
- 委員 5月6日の地区別計画推進懇談会は、全地区それぞれで行うのか
- 事務局 各地区から区役所に集ってもらい、今後のことについての話し合いを行う。5月6日以降、地区毎の状況に合わせて検討を進めていく。
- 委員 地区別計画推進懇談会は、地区別計画策定の勉強会と考えて良いか

事務局 委員	その様に捉えていただきたい 地区別計画に当事者団体はどう参加したらいいのかわかりにくいのではない か。自分の住んでいる地区か施設の場所なのか。策定委員会と地区別計画の メンバーがどう連携していくかが課題だと思う。
委員長	障害者など比較的少数の方々の問題は事務局も検討し、策定委員会でも議論 したほうがよい。少数の方々がどの地区でも発言の機会を持てるよう考えておか ないといけない。
委員 委員	地区別計画の理解は、全域計画を策定するうえで必要である。 地区別と全域の相関関係を表すために、例えば全域計画が先導し、地区別計 画はそれを受けて検討するとしないと、両者がうまく連携していかないのではな いか。
委員長 事務局	全域と地区別計画の関係について事務局ではどう考えているのか。 地区別計画策定にあたり、地区支援チームが策定支援にあたる。その際に地 域の意見等を伺うことが業務となる。リーダー会議等を通じて地区の意見を策 定委員会に報告し、策定委員会で検討した内容についても報告し共有してい きたいと考えている。 市計画では区計画の支援を行うことが方針の一つにあげられている。それであ れば、区計画は地区別計画の支援の性格を持つものとするような定義を委員 会が設ければ全域計画の理念などが地区別計画に浸透するので、考え方を確 認していただきたい。
委員長	地区別計画についても、策定委員会の中で検討する機会を設けてもよいので はないか。
委員	全域計画が地区別計画を支援するという言葉は受け止めたいが、地区別計画 は地域の人の考えで進めるものなのでもれてしまう部分もあるだろう。全域計画 でセーフティネットを盛り込むという考え方はどうか。
委員	第1期地区別計画策定の時の振り返りとして、今に思うとメンバー構成を工夫す る必要があったと思う。子ども関係や学校関係についても考慮すべきであった。 地区別計画検討のメンバー構成について、もれがないようにアドバイスをいただ きたい。
委員長	学校など活動範囲が地区のエリアと一致していない団体もあるが、子どもの問 題や学校との連携は、計画に反映してよいと思う。
委員	地区別計画を策定するための懇談会を開催する場合、当事者たちは居住して いる地区の懇談会に行くのか、それとも全域で課題別等検討の場に参加する のか、どちらに行けばよいのか
委員	宮沢地区では、連合では無理だが地区社協に当事者団体の代表が入ってい る。地区社協に代表を送るのが一番妥当なのではないか。
委員	地区社協のメンバーに入れるかどうかではなく、地区別計画策定時には当事者 が参画する機会を設けることが必要。そのための情報提供は工夫が必要であ る。
委員	老人クラブがあるところは、友愛活動推進員がいる。活動の活性化のため有効 に計画に関われる環境を整備してはどうか。

○今後の話し合いのテーマについて

委員 「気づきのキャッチ&見守りのリレー」「まちの防災の知恵袋」「地域福祉保健計画」はもとが一緒なので一緒に考えられないかと前から提案していたが、そう行く方向になったということでしょうか。

委員 地域には、いろいろ活動している人がいる。しかし見守りという形はいろいろであるため、ある程度統一的に見守りを考える必要があるのではないかと。

委員 「まちの防災知恵袋事業」は自治会が中心のため、会長が一年交代など自治会の状況によって進まない部分がある。「気づきのキャッチ&見守りのリレー」は地区社協が主体のため進めやすいのだが。

委員 地域生活が困難になった方々の見守り、地域包括支援センターなどにつないだ場合、経過報告がないのはおかしい。フィードバックがあるとよい。

委員 阿久和の地域包括支援センターは、つないだ方のその後を経過報告してくれる。地域包括支援センターを活用すればいいと思う。

委員 各事業とも最初は検討会で審議し立ち上げてきたが、地域にくるとうまく進んでいないところもある。どう成果をあげていくか再検討したほうがよい。

委員長 その点、事務局はどうか

事務局 地域福祉保健計画における見守り事業と「気づきのキャッチ&見守りのリレー」事業は、地域福祉保健計画を機に同じものとして捉えても良いかと考える。「気づきのキャッチ&見守りのリレー」事業は、緩やかな見守り活動と啓発も含まれているので、計画の主旨に沿っている。

委員 見守りは、自治会単位程度の小単位でやっていくのが一歩進めるポイントではないか。しかし個人情報保護の概念が活動のじゃまをしている。それは打破できないか。

委員 名簿がなければできないというのではなく、日常のおつきあいの範囲で行えばよい。定期的なものとして捉えるならば、宮沢地区では防災グッズを利用して訪問などを行っている。非常時の見守りと日常の見守りはわけて考えるのが妥当だと思う。

委員 小さい班単位での日常的な見守りを行えば名簿は必要とは思わない。

委員 三ツ境地区では、見守りという点では全て同じものとして認識している。

委員 普段からの見守りができていれば災害時もうまくいく。見守りの範囲として小さな単位でやる方法もあるが、地区全体で取り組む気持ちを持ってもらう方法もある。うちの自治会ではさりげない見守りのほかに様々な活動グループで積極的な仲間作りを進めており、いざという時に大きく役に立ってくると思う。

委員長 ネットワークづくりの話は人材育成のテーマと密接に関わってくる。

○その他について

委員長 それでは、この他に必要な話題であるとか、資料など要望があれば述べて欲しい。

委員 精神障害の早期発見・早期対処は必要で、そのために小中学校に対してアプ

	<p>ローチすることを瀬谷区でも計画に入れていただくといいと思う。</p> <p>委員 障害の問題は学校と密接している。学齢障害児のために、学校との連携方法の検討があっても良い。</p> <p>委員 瀬谷区は児童虐待が多い。見守りの中に子育て家庭を含めて考えてもらいたい。</p> <p>委員 障害者支援について考える勉強会を区役所が実施してきたことにより考えるきっかけづくりができた。今後も継続してやってもらいたい。</p> <p>委員 自ら声を上げられない要支援者も多い。その人たちの救済についても議論すべき。児童虐待防止への取組も必要と考える</p> <p>委員 区連会などでも要望しているが、そういった地域の要支援者の実態や数値などは是非公的な場所で情報提供して欲しい</p> <p>委員長 次回は、横断的な共通するテーマで話し合いを行う。そのためには、事務局に要望があれば、事前に提出して欲しい。</p> <p>○課題等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地区支援チームの役割の明確化 ・全域計画と地区別計画の関係性の整理 ・分野別の課題の計画への反映方法 ・見守りに関する事業の整理 <ul style="list-style-type: none"> まちの防災知恵袋 気づきのキャッチ見守りのリレー 地域福祉保健計画 ・支援を求められない方への支援について <ul style="list-style-type: none"> 生活保護世帯、障害者手帳所持者数など困難を抱えている方の状況を具体的な数値で次回示す。
次回	平成22年6月4日(金) 区役所1階会議室 午前10時から